

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2023年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門	音楽1	必修	前期	32名
専門	音楽2	必修	後期	32名
専門	音楽3	必修	前期	39名
専門	音楽4	必修	後期	39名
専門	子どもの音楽	選択	後期	2名
専門	幼児と表現	必修	後期	39名

2. 教育の理念

「音楽を通して、子どもたちの表現に共感・共鳴することができ、子どもの豊かな育ちを支えられる保育者の育成」「音楽に関する基礎的な知見や素養を持ち、豊かな感性と表現力を兼ね備えた保育者の育成」を目指すことを、教育の理念としている。

3. 教育の方法

音楽1～4の授業では、ピアノの個人レッスンによる実技指導が主である。学生個々の音楽経験値は様々であるため、学生個々の実技レベルのみならず、学生の特性を把握するように努めている。また、学生が自信をもって音楽表現を追究できるよう、学生の現状を認めた上で、課題を提示していくことを心がけている。また、授業時間外においても、学生からの質問等に対応し、個々の課題に応じたフォローを行っている。

講義による授業においては、子どもたちの聴覚の発達や音楽表現への理解を深め、音環境をどのように整えていくのか、という視点で授業を実施している。また、音に対する感受性を高めることを目的の一つとし、また日ごろの生活にあふれる音に対する「気づき」に触れられるよう、個人ワークとして自身の生活の中にある音を振り返り、音から感じたことを記録する課題を設けている。

4. 教育の成果

本学における音楽科目の学修により、音楽未経験であった多くの学生は現場での弾き歌いに最低限対応できる力を兼ね備え、様々な音楽経験を擁した学生は、さらなる力を身に付ける姿が見られた。また、保育者として現場に出てからも生涯をかけて学びを続けられるような基礎力の理解を重要視したことで、学生の音楽の学びに対する意識向上につながったと思われる。

音楽1～4においては、今年度から初めて、自身が演奏する様子を提出する「動画課題」を設けた。学生たちの練習時間の確保、学生個々の課題へ授業時間外でのアプローチ、教員・学生相互のやり取りにより、学びを深めることができたのでと思われる。

さらに、今年度の「音楽1・2」において、楽典（前期）や発声指導（後期）の一斉指導の手法を取り入れた。特に、発声面に関して演習の時間内で十分に時間を割けたことにより、保育者にとって必要な発声に関する知識や歌を通した音楽あそびにふれることができ、単に弾き歌いをするだけではない保育者としての子どもとのかかわりに迫ることができたのではないかと考えている。

5. 今後の目標

実技指導においては、個々の特性をくみ取ることを大切としているが、教員の言葉かけ、働きかけによって学生の学びの意欲に差がでることを実感している。教員の力不足により学生の成長の可能性を妨げないよう、教員自身のソーシャルスキルを高めていきたい。また、保育者は、当然ピアノに取り組むもの（できなければならない）という従来からのイメージがあるため、学生は学びの動機を感じることもなく、音楽の学習がスタートする傾向がある。そのため、保育者としては重要な課題である「子どもたちのために」「子どもたちとともに」ということに意識が向かず、自身の演奏技術に注目する機会が多くなり、自分自身の実力（単に演奏ができたかどうかという結果）を重要視する様子が多々見られた。しかし、実際は子どもたちとどのように音楽を楽しむのか、いかに子どもたちの「楽しい」という思いを引き出せるのか、という力が大切である。日ごろの実践の中で、子どもたちを想像できるような授業展開や、言葉かけを工夫し、何のために保育者は音楽を学ぶのか、考えられるようなきっかけづくりとなる授業展開を検討したい。また、学生のレディネスを最大限に引き出し活かすことや、内発的動機に働きかける授業展開を模索していく。

6. 根拠資料

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書